

おちゃばを共同運営する(前列左から)米沢栄子さん、小谷地さおりさん、金田伸子さん



# 町民憩う 新生産直



「まちの駅ぶらっと」は、栗石商工会青年部が2003年開設。これまで町民有志らが運営し、地元産野菜などを販売してきた。高齢

## 栗石「おちゃば」オープン

栗石町上町南のよしゃれ通り商店街に新たな産直施設「OCHABA(おちゃば)」がオープンし、町民憩いの場となっている。この場所で営業していた産直「まちの駅ぶらっと」の閉店に伴い改装、共同運営する町内の女性3人は「幅広い世代が気軽に集う場にした」と生まれ変わった店舗に期待を寄せる。

## 女性3人が共同運営



(54)長山の3人が立ち上がった。町まちおこしセンターとして、4月から新店舗オープンに向けて準備を進め

## 旧店改装、お茶飲み場も

おちゃばは、木造2階建ての建物の1階(約150平方メートル)を改装し、お茶飲み場も設けた。店内が見えるガラス張りの入り口を開放し、15人前後が座れるお茶飲み場を新設。気軽に立ち寄れる雰囲気づくりを意図した。6日にオープンした店内には町産の山菜や果物、手芸品などが並び、金田さん、米沢さん、小谷地さんが交代で常駐する。



多くの買い物客でにぎわうOCHABA(おちゃば)



# 「OCHABA おちゃば」 開店!!!



布草鞋や「菩提樹皮(まだかワ)」の加工品や山菜など郷土色豊かなお店の雰囲気が伺えます。

岩手県栗石町と言えば、スキーのアルペン競技大会や小岩井牧場  
で知られていますね。  
その栗石町のお客様、金田伸子  
さまからお手紙をいただきました。  
そこには、新聞記事と山菜加工  
品、民芸品が沢山荷造りされて  
いました。  
すでに、エリクサーを求められ  
ており、一昨年わざわざ、栗石町  
からまほろばに来店され、親しく  
懇談させて頂きました。  
その後、故郷の衰退する旧店舗  
の商店街を復興しようとするお  
仲間のみなさんと共に「OCHABA  
おちゃば」という産直施設を設け  
られ、町民憩いの場として賑わい  
を見せています。毎日のように皆  
様と一緒に山菜を採り、民芸品を  
造り、それを販売する、その生き  
甲斐で働かれておられる様子が当  
地の記事に掲載されました。  
その中でも大菩提樹、シナノキ  
の樹皮「マダカワ」を繊維にして

織った布には驚かされました。宮  
沢賢治は詩集『春と修羅』に、  
高原の風とひかりにささげ、菩提  
樹皮と繩をまとふ、気圏の戦士わ  
が朋たちよ・・・と詠んでいま  
す。地域に根付く民芸の数々を大  
切に伝承したいものです。  
金田さんは、まほろばたより  
の「まず自分自身がどんな人生を  
望み、何を求め、どうありたい  
か。可能かどうかではない。何を  
望むかが大事」の言葉が気がかり  
になって、69歳にして仲間とお店  
を開いたということです。店内で  
は、エリクサー水をお客様に振る  
舞い、ご馳走されています。遠く  
離れた北国からエールを送りたい  
と思います。皆様も、機会があれ  
ば、お尋ねください。  
頑張ってください、金田さ  
ん!!!  
(お客様で、地方で活動されてい  
らっしゃる方々、編集部にご一報く  
ださいませ。)

まほろば主人